

決算報告書

(第 5 期)

自 平成 27 年 11 月 1 日

至 平成 28 年 10 月 31 日

温泉の素. com株式会社

長野県飯田市中村1758番地2

損 益 計 算 書

科 目	金 額	円
【純 売 上 高】		
温泉の素売上高	121,474,035	
化粧品売上高	849,852	122,323,887
【売 上 原 価】		
期首棚卸高	4,857,231	
温泉の素仕入高	38,433,989	
化粧品仕入高	3,007,150	
外注費	673,502	
仕入値引戻し高	△129,578	
合 計	(46,842,294)	
期 末 棚 卸 高	5,147,150	41,695,144
売 上 総 利 益		(80,628,743)
【販売費及び一般管理費】		83,614,757
営 業 損 失		(2,986,014)
【営業外収益】		
受 取 利 息	3,309	
受 取 配 当 金	10	
売 電 収 入	592,191	
雑 収 入	1,909,316	2,504,826
【営業外費用】		
支 払 利 息	406,049	
雑 損 失	4,000,000	4,406,049
経 常 損 失		(4,887,237)
税引前当期損失		(4,887,237)
法人税住民税及事業税		71,000
当 期 損 失		(4,958,237)

貸借対照表

平成 28 年 10 月 31 日現在

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
	円		円
【流動資産】	【 25,211,123】	【流動負債】	【 5,475,377】
現金及び預金	6,586,606	買掛金	5,371,651
受取手形	238,960	預り金	61,826
売掛金	12,511,315	未払法人税等	71,000
商品	5,147,150	未払消費税	Δ29,100
短期貸付金	530,000	【固定負債】	【 42,651,000】
未収入金	197,092	長期借入金	30,909,000
【固定資産】	【 28,424,512】	長期借入金役員	11,742,000
(有形固定資産)	(26,568,428)		
建物	6,982,047	負債の部合計	48,126,377
機械装置	14,181,371		
車輛運搬具	3,025,403	純資産の部	
一括償却資産	2,379,607	【株主資本】	【 5,509,258】
(無形固定資産)	(1,515,584)	(資本金)	(10,000,000)
ソフトウェア	1,515,584	資本金	10,000,000
(投資その他の資産)	(340,500)	(利益剰余金)	(Δ4,490,742)
敷金	340,500	繰越利益剰余金	Δ4,490,742
		純資産の部合計	5,509,258
資産の部合計	53,635,635	負債及び純資産の部合計	53,635,635

販売費及び一般管理費

自平成27年11月1日
至平成28年10月31日

科 目	金 額	円
広 告 宣 伝 費	1,031,352	
荷 造 運 賃	2,769,601	
研 究 開 発 費	461,571	
給 与 手 当	38,342,077	
雑 給	308,493	
法 定 福 利 費	2,967,050	
福 利 厚 生 費	3,784,670	
減 価 償 却 費	4,384,355	
賃 借 料	82,445	
修 繕 費	1,187,191	
事 務 用 品 費	1,568,250	
消 耗 品 費	7,890,382	
水 道 光 熱 費	643,444	
旅 費 交 通 費	3,017,274	
支 払 手 数 料	1,987,145	
租 税 公 課	720,004	
交 際 接 待 費	292,143	
保 險 料	1,694,786	
通 信 費	323,716	
諸 会 費	34,000	
車 輛 費	173,098	
新 聞 図 書 費	108,930	
地 代 家 賃	8,229,367	
燃 料 費	389,930	
分 析 研 修 費	36,000	
雑 費	1,187,483	
合 計		(83,614,757)

株主資本等変動計算書

自平成27年11月1日至平成28年10月31日単位円

	株主資本				純資産の部
	資本金	利益剰余金		株主資本	
		その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金		
当期首残高	10,000,000	467,495	467,495	10,467,495	10,467,495
当期変動額					
当期純損益金		△4,958,237	△4,958,237	△4,958,237	△4,958,237
当期変動額合計		△4,958,237	△4,958,237	△4,958,237	△4,958,237
当期末残高	10,000,000	△4,490,742	△4,490,742	5,509,258	5,509,258

個 別 注 記 表

自 平成 27 年 11 月 1 日

至 平成 28 年 10 月 31 日

- I. この計算書類は、中小企業の会計に関する指針によって作成しています。
- II. 重要な会計方針に係る事項に関する注記
1. 資産の評価基準及び評価方法
棚卸資産：最終仕入原価法 有価証券：移動平均法による原価法
 2. 固定資産の減価償却の方法
建物：定額法 その他の有形固定資産：定率法 無形固定資産：定額法
 3. 引当金の計上基準
計上なし
 4. 収益及び費用の計上基準
収益：実現主義 費用：発生主義
 5. 消費税及地方消費税に相当する額の会計処理の方法
税抜き処理
 6. その他貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、注記表作成のための基本となる重要な事項
該当なし
- III. 貸借対照表に関する注記
- | | |
|---------|-----------|
| 減価償却累計額 | 4,985,513 |
|---------|-----------|
- IV. 株主資本等変動計算書に関する注記
1. 当該事業年度の末日における発行済株式の数
普通株式 1,000 株
 2. 事業年度末日における自己株式の種類及び数
該当なし
 3. 剰余金の配当
該当なし
 4. 事業年度末において発行している新株予約権の目的となる株式
該当なし
- V. その他の注記
該当なし

上記の通りご報告申し上げます。

平成 28 年 12 月 26 日

温泉の素. com株式会社

代表取締役

鈴木 健太郎

平成 28 年 12 月末日

各従業員
お取引先の皆様へ

平成 28 年 10 月（第 5 期）決算のご報告

温泉の素.com 株式会社
代表取締役 鈴木健太郎

平素は、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
別紙の通り、第 5 期の決算がまとまりましたのでご報告申し上げます。

<はじめに・・・当期の主な動き>

■設備投資の 1 年

社内の製造オペレーションソフト、展示会用什器、イオンクロマトグラフ、分析機器、太陽光発電装置、製造記録システム、パソコンの入替（ソフトも含む）、トイレ修繕、営業車の購入など投資した。

■化粧品分野も堅調

化粧品製造のための備品の購入など設備投資を行うとともに、営業パンフレット、営業ツール、販促ツールなど作成してきた。

東北方面に営業に出たが、女将さんなどお話しする中で、とても良い手ごたえを感じている。

■税務署の調査を受ける

特に大きな金額になるような指摘はありませんでした。

■損益計算書

【売上】売上 12,232 万円 (対前年+2658 万円=127.8%)

消費増税前 (10%) に営業をしっかりかけようと、社内の配置転換をおこない営業スタッフ 3 名で行ってきた。3 人ともテレマ営業だが、ベテラン営業社員 1 名を化粧品ならびに温泉の素商品企画営業、1 名を新規テレマ、1 名をクロージングテレマとして割り振った。当社としてはかなりの伸びを見せたが、現在、自社と温泉施設との直接取引率は、65.2%であり、代理店取引率は 34.8%である。

代理店比率 40%までは、会社にとって好ましいがこれを超えると厳しくなる。

【仕入】仕入 4169 万円 (対前年+1342 万円=147.5%)

売り上げの伸びに対し、仕入の伸びが著しい。内容を見てみると、温泉の素が+2790 万円 137.7%、化粧品 (新規) +300 万円、外注費 (新規) +67 万円である。温泉の素の仕入には、温泉の素の印刷袋やラベルの外注費などが含まれている。急激な売り上げの伸びへの対応するため、社内のスタッフによるラベル印刷やラベル貼り (手張り) では間に合わないため、①ラベルの外注、②「無地袋+ラベル貼り」から「印刷済みの袋」への切替、を行っているからである。また、新規事業である化粧品の仕入や、下請け扱いのラベル貼りスタッフの採用がある。

【販売費及び一般管理費】8361 万円 (対前年 2468 万円=141.9%)

増加要因を見てみると、広告宣伝費+103 万円 (新規)、荷造り運賃+77 万円、研究開発費+38 万円、給与+579 万円、雑給+21 万円、法定福利費+114 万円、福利厚生費+150 万円、減価償却費+355 万円、修繕費+79 万円、事務用品+102 万円、消耗品 305 万円、旅費交通費+176 万円、支払手数料+135 万円、租税公課+43 万円、交際費+9 万円、保険料+80 万円、通信費+21 万円、諸会費-80 万円、車両費+17 万円、地代家賃+11 万円、燃料費+18 万円、分析研修費+3 万円、雑費 117 万円らである。※毎年出展しているホテルレストランショーへの出展料を、諸会費から広告宣伝費に振り替えた。

売り上げの伸びを見た中で、雑給や法定福利費、人件費の伸びは、+716 万円=+120.8%である。営業スタッフ+2 名分の給与も含まれていることを考えると、製造における人件費率の増加は通常と考える。福利厚生費の伸びは、2 年ごとに行う社員旅行 (今回はソウル) を行ったからである。

売上要因をつくるため、既存の温泉の素では、冒頭に述べた設備投資などを行ったがゆえに、減価償却費や修繕費、事務用品 (パソコンのほぼ総入れ替えを含んでいる)、消耗品、雑費が増えている。また、化粧品分野での投資も含まれている。

以上の事を踏まえると、販売費及び一般管理費が顕著に増加しているが、この中で、次年度以降も影響を与える項目の増加はそれほどないので、適切な設備投資と考える。

【営業利益】 - 298 万円 (対前年-1152 万円)

【経常利益】 - 488 万円 (対前年-1465 万円)

詳細は示談書による守秘義務がため述べることができないが、著作権侵害による賠償金によって 400 万円が特別損失に計上されている。事務用品のパソコンを入れ替えたのもこのためである。

【特別利益】 0 万円 (対前年+ 202 万円)

【総論】

今年も、売上を伸ばしすぎたと反省している。社内のスタッフの成長以上に成長するとミスが発生したり、外注に頼らざるを得ない。

当社は、小ロット生産であるがゆえに、製造を手作業に頼っているウエイトが大きい。他社に奪われにくい強みではあるが、一方で売り上げを1000万円アップするには、年間給与100万円程度のパートさんで3人ぐらい雇わなくてはならない。新人さんを雇い教育すると同時に、入社3~4年のパートさんに他の部門との掛け持ちをお願いし、中堅も育ててゆかねばならない。

製品回収など不良を出さずに安定的な成長をするためには、人材育成とともに売上アップをしていかねばならない。・・・(昨年同様のコメント)

先にも述べたが、赤字の要因は、①営業スタッフの増加、②設備投資(展示会什器、新規事業備品、検査機械、製造記録システム、太陽光発電、プリウスの購入、消耗品他である。)③著作権侵害による賠償金(雑損失)である。

順調以上に成長した1年であった。

■貸借対照表

【流動資産】2521万円（対前年－359万円＝87.5%）

前期は設備投資のための前払金が307万円（化粧品ボトル）あったが、今期はない。したがって、現金は減少しているが、売上の増加など考えれば、特に大きな変動はない。手形は24万円ある。特に不良債権はない。

【固定資産】2842万円（対前年＋2011万円＝342.0%）

機械装置＋1357万円の増加（社内オペレーションソフト、イオンクロマトグラフ、太陽光発電装置含む）。車両運搬具＋302万、一括償却資産237万円、ソフト151万円である。会社の順調な業績を見越しての設備投資である。

太陽光発電については、将来手狭になるであろう工場の借地料程度（建物は自社所有）の売電収入を得ている。将来移転するにしても、身軽に移転できる土台ができた。

【流動負債】547万円（対前年－15万円＝97.2%）

買掛金の増加＋292万円、設備投資による消費税既払いでの減少－299万円、預り金－8万円。

【固定負債】4265万円（対前年＋2163＝203.0%）

太陽光発電設備導入の為、1000万円（税込）の他に賠償金原資として運転資金を借り入れた。長期社長借入れ1174万円（＋695万円）。長期借入金1174万円は、実質の内部留保金とみなしてよい。

【株主資本】550万円（対前年－495万円＝52.6%）

【総論】

長期社長借入れの増加695万円（実質に返済不要であり将来の資本金の増加原資）を加味すれば、これだけの設備投資（償却分や消耗品など計上）を行っても、尚、実質黒字である。著作権侵害による賠償金の400万円は予想外であった。

【第6期の重点施策】

■売上面

ホテルレストランショーへの出展2月(5年目)と、電話営業に尽きる。現在900施設との取引だが、年々100施設程度の増加で推移している。1000施設までは今期中に伸びるだろう。個人能力の営業から、組織営業の体制への転換を図る。そのための設備投資は既にテレマシステムなど行ってきた。したがって、自然増での成長のみでおそらく1000店舗に届くであろう。

化粧品分野の成長に寄与したい。昨年度営業も含めて東北方面を営業担当者と回った。1週間かけて営業に出たが、堅調な手ごたえを感じている。安全性を確かめながら、80店舗を目指す。

今年同様の売り上げ増は期待しないが、減となることは全くないであろう。

■商標など著作物ふくめ社内体制の確保

品質管理に重点を置き、成長の根幹である安全性をより確保してゆきたい。

■設備投資

混合機の2台目、ふるい機の2台目、シーラー機の2台目、インクジェットプリンター(小箱・容器などに直接ロット番号や消費期限を印刷するもの)、自動充填閉塞機の2台目、と投資してゆきたい。工場スペースは確保している。資金手当てのみである。自動充填閉塞機についてはオペレーターの採用が必要となる。

■役員報酬の設定

今年度まで3期にわたり役員報酬を0としてきた。繰り返しになるが、大阪の専門学校に自分(温泉の素.com㈱代表取締役兼抗菌美装㈱技術員)と奥様(抗菌美装㈱代表取締役兼温泉の素.com㈱分析担当)の2名を毎週土日通わせて化粧品製造の責任者資格を得た。2年間でおよそ1500万円を使ったわけだが、その分を加味して0と設定してきた。次期より月額報酬30万円を設定した。

■売上増にともなう人員の不足という課題

現在5期を振り返り、年々売り上げが増加している。(1期6126、2期6968、3期7909、4期9574、5期12232万円)

大手企業がやらない小ロット生産に重きを置いているので、競争が少なく大手企業に奪われにくいという特徴があるが、反面、手作業の部分が大半を占める生産体制である。したがって、売上が伸びることはとても良い事ではあるが、伴って人員の増加が必須である。売上が1000万円伸びるごとに、パートさん(年収100万円程度)であれば3人ほど補充しなければならず、手作業ゆえに慣れるまでに時間がかかり、人的生産体制の確保という悩みが尽きない。・・・現在までは注文から4日程度で製造し、温泉施設には7日で納品できている。

11月や12月の繁忙期を考えたとき、土曜日、祝日も既に製造している。これまでのお客様に安定的に商品を提供するためには、在庫を用意しないとした前提条件で、人員が確保できるまで、新規の温泉施設の契約を増やさないと決断に至らざるを得ない気がしている。様子を見ながらの判断だが、今期末あたりで新規契約の受注を止めて、生産体制を整えたい。